

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの 史跡探訪ガイドブック IV



堺・大阪コース



大阪市住吉区 加賀屋新田会所



堺市堺区 大和川 与謝野晶子歌碑



大阪市平野区 全興寺

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの史跡探訪ガイドブックⅣ 堺・大阪コース

もくじ

はじめに	3
------------	---

● 天王寺・住吉・平野コース

和気清麻呂の大和川つけかえ工事と天王寺	4
海の神様 住吉大社と住吉公園	6
河内の綿を集めた平野郷	8
歴史のぬくもりをいかすまちづくり	10
天王寺 住吉 平野 探訪マップ	12

● 東部コース

大和川で南北にわかれた依網池と摂津五箇荘	
☆あびこの観音さん ☆旧石器時代のロマンの地	14
堺市北区常磐町3丁は庭井新田だった	
☆古代の都に続く難波大道	18
1982年水害と西除川	
☆阪神高速大和川線と西除川	20
浅香の曲がりと狭間川	22
浅香山浄水場と水辺の楽校エリア	24
遠里小野村と七道村を貫いた大和川	26
東部エリア 探訪マップ	28

● 西部コース

緑地として公開されている 加賀屋新田会所跡	30
大和川の下流～河口域のいきもの	32
大和川がつくった三宝新田の今	34
ゆたかな漁場 大和川河口と臨海工業地帯	36
大和川つけかえで移動した堺の港	38
明治からのリゾート 大浜公園と旧堺灯台	40
堺の環濠 土居川と内川	42
西部エリア 探訪マップ	44
堺市・大阪市南部 探訪マップ	46

はじめに

2017 年以後、Ⅰ 柏原・八尾コース Ⅱ 羽曳野・藤井寺・松原コース Ⅲ 大東・四條畷・東大阪コースを発行。今回その完結編・第Ⅳ集として「堺・大阪コース」を発行することができました。今回のコースは、大和川つけかえで大きな影響を受けた地域の昔と今をさぐるものとなっています。

2024 年は大和川つけかえから 320 周年。大和川市民ネットワークは「第 17 回～流れは未来へ～『大和川の日市民のつどい』」にとりくみました。国や大阪府など自治体が記念事業に力を入れた 300 周年から 20 年。市民活動がひろがり、大和川研究が進み、大和川の水質は大きく改善しました。日本文教出版の小学 5 年生の社会教科書に、大和川がきれいになったねと紹介されています。

2020 年から編集を始め、新型コロナ禍で活動を制約しながら、ようやく出版に至りました。この間に、堺市域で高速道路が開通し、大和川サイクルロード事業が進んで西除川合流点に橋が造られるなど、変化がありました。

ガイドブック編集をすすめながら、新たな発見や学び、出会いが続きました。

多くの団体や施設、行政、個人の皆様にご指導ご支援をいただきました。

厚くお礼申し上げます。

1935（昭和 10）年ころの名所案内チラシ



阪和電鐵が（現 J R 阪和線）ができたのは 1929 年。杉本町駅は 1929 年 堺市駅（阪和堺～金岡～堺市）は 1932 年 浅香山駅（後に浅香）は 1937 年にできた

※ 1 丁はおおよそ 110m

100 銭 = 1 円

（竹田辰男さん提供）

和氣清麻呂の大和川つけかえ工事と天王寺

奈良時代にも、大和川を大阪湾に流す大工事がありました。

『続日本紀』によると、788年2月16日に和氣清麻呂が次のように奏上したといひます。
「河内・摂津両国の国境に川を掘り、荒陵（四天王寺周辺）の南から河内川（当時の大和川の本流・平野川）を西方に導き海へ流そうと思ひます。そうすれば肥沃な土地が広がります。」

そこで、清麻呂にその事業を担当させ、延べ23万人余りに食料を支給してこの事業に従事させたそうです。しかし、この工事は失敗したと記録されています。

古代飛鳥の都から784年に長岡京に移るまで、都は大和川流域にありました。しかし710年平城京遷都以後も恭仁京（740年）難波京（744年）遷都などがありました。清麻呂の大和川つけかえの提案も、国家的なプロジェクトだったと思われます。大都市の真ん中にその工事跡が残っています。

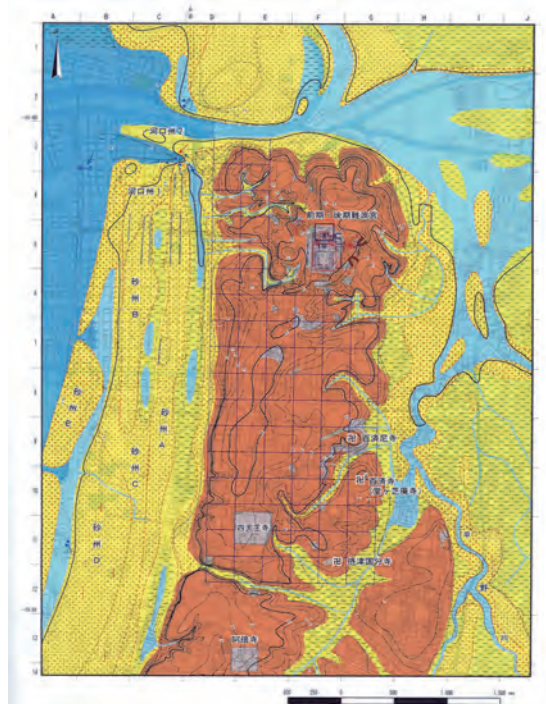
2つのコースでさぐってみましょう。

和氣清麻呂のつけかえ工事跡を体感 （「東西コース」）

J R大和路線東部市場前駅付近から西北西に向かって、人工的に掘り下げたと考えられる地形が続いています。まちのあちこちに不自然な段差が確認できる場所があります。

上町台地の稜線付近の谷町筋あたりでは、9m前後も掘り下げられたといわれています。天王寺中学校の西側の道の南北方向の急勾配や、四天王寺南大門から庚申堂にかけての南北の坂道に立ってみると高低差がよくわかります。河底にあたる庚申堂の南側の道路から西に進むと南方向に上る階段があり、段数を確認して掘り込みの段差を実測することもできます。

堀越神社の南側の崖裏の階段でも落差を測定することができます。眼下には「河底池」が広がっています。この池は和氣清麻呂が大和川の付け替え工事をした最西端とされています。上町台地の土壌は堅固であり、当時の土木技術では掘り下げる工事は難航しました。実際に水を流すためにはあと5m以上の掘り下げが必要であったと考えられます。



大阪歴史博物館刊行『大阪上町台地の総合的研究』より「奈良時代の大和川」上町台地の古地形 右下・南からなめ西北へのくぼみが大和川つけかえの掘り跡と思われる



和氣清麻呂の掘り下げ跡がわかる階段 9m掘り下げがわかった場所。さらに5m掘り下げが必要だったがでぎずにあきらめたらしい。奥にハルカスが見える



河底池と茶臼山に渡る和気橋 橋の名が古代の工事をしのばせるが解説は無い。
茶臼山は真田幸村の本陣跡としての解説が多い

河底池の北側隣には大阪五低山の一つ、標高 26m の茶臼山があります。人工の山ですが、古墳の可能性は完全に否定されないものの、清麻呂が掘り下げた時の盛土だと考えられています。

時空を超えて 天王寺かいわいの史跡をめぐる(「南北コース」)

J R 天王寺駅北口を出たところが堀越町です。神社は聖地とされ、堀越神社をつかえルートにできず、南側を掘ったと考えられています。

北東の石鳥居は四天王寺の西門で、春秋の彼岸の中日に、太陽が鳥居の中心を通して沈むのを拝して極楽浄土を思う「西方浄土の東門」だとされています。

四天王寺があるあたりは、大阪の文化発祥の地と言える上町台地の稜線部分です。大昔は東に河内湾、西に大阪湾が広がる半島でした。西側は荒波によって深い海食崖かいしょくがきとなっていました。今も坂が多く、西へ下る「七坂」や夕陽丘の地名があります。天神坂には安居神社があり清水の湧出井戸があります。安居神社は菅原道真が大宰府に左遷された時、風待ちのため逗留したところで、真田幸村戦死の地の像が立っています。安居神社を南へ出ると逢坂おうさかで今は国道になっています。一心寺を抜ければ天王寺公園です。

河底池の西の高台に大阪市立美術館があり、正面眼下には天王寺動物園、通天閣をはじめ「新世界」が見渡せます。高い階段は昔の海食崖の上にいることを体感できる場所です。



旧住友家本宅跡に建つ大阪市立美術館



旧黒田藩蔵屋敷長屋門



新世界の通天閣

1903 (明治 36) 年、大阪で初めての第 5 回内国勧業博覧会が開かれ、天王寺も会場となりました。その跡地の西半分を「新世界」に、東半分を「天王寺公園」にしました。通天閣は、パリ凱旋門を下部に、エッフェル塔を上部に模して造られました。当時は東洋一の高さを誇ったといひます。公園内には、移築した旧黒田藩蔵屋敷長屋門や林芙美子文学碑があります。

新世界ジャンジャン横丁の地下鉄動物園前から東にあべのハルカスが見えます。新世界がある所は昔の砂浜で、崖の上にハルカスがあり一段と高くそびえ立って見えるようです。

海の神様 住吉大社と住吉公園

住吉大社は古来より航海の安全を守る海の守護神として、境内奥から海の表面の表筒男、中層の中筒男、海底の底筒男をまつり、第三殿の横に朝鮮三韓を征したとされる伝説の神功皇后をまつり、船列の形に並んでいます。

故田中卓皇学館名誉教授は「ツツノヲとはツツの男のことで対馬の南端厳原 豆酲という安曇族の地があり、神功皇后の水軍を司ったとされ、住吉大神ともいわれた」との説を述べています。安曇族は九州宗像、近江安曇川、尾張、海部、信州安曇野と勢力を拡げ、米作と製鉄と生糸を伝えたとされています。

「古事記」では、神功皇后が新羅を侵攻する時、大依羅神社で戦勝を願い、帰還した時に住吉豪族が海の神住吉三神を祀り、勝利報告をしたのが住吉大社の始まりとされています。



住吉大社 第三殿と右 第四本殿(神宮皇后をまつる)



正面大鳥居のそばに立つ石碑

遣唐使進発の地

大鳥居の左手に「遣唐使進発の地」の石碑があり、反橋左手に遣唐船を型取った黒大理石の万葉歌碑「住吉に斎く祝が神言と行くと来とも船は早けむ」と刻まれています。

古代遣唐使は今の北浜から天満橋八軒家付近にあったとされる難波津を2～4隻で出発し、今の細井の河口の入江に入って、住吉大社に安全航海を祈願してから出発

したのです。船の舳先には住吉大神の祠を建てて航海をしました。

住吉高燈籠と汐掛道 住友灯籠

住吉高燈籠は江戸の中頃に住吉大社への神前の灯明として建てられ、灯台の役割をもっていました。12m四方の石垣と21mの木造の常夜灯でしたが、1950年のジェーン台風で壊れ石垣だけとなっていました。



住吉公園内の汐掛道

1974年阪神高速道路建設のため200m東に移動させ、国道26号線沿いに鉄筋コンクリート造りで再建されました。往時から6月20日に出見の浜海岸で神輿を海水で洗い、高燈籠に一泊して神社に帰りました。そのためその通りを汐掛道と呼んでいます。



高燈籠

汐掛道には住友家が寄進した石灯籠が 14対^{ついで}28基並んでいます。1690 年(元禄 3 年)に伊予別子銅山を開発した住友家は、大阪の銅吹所に運んで精錬し銅銭や銅製品のため各地に運びました。海上輸送の安全を祈願して 1727 年に五代目当主住友友昌が献納して以来 13代14代を除いて 1929(昭和 4)年の第16代に至るまでのものが建てられています。



堺市呉服古着商が寄進 6m近い大灯籠

また、住吉大社境内には、各地廻船問屋や薬種業や多くの業者の石燈籠約 600 基が所狭しと建てられています。



反橋 太鼓橋の名で親しまれている

反橋と海浜植物

反橋^{そりばし}は幅 5.8m、長さ 20mで、淀君が寄進したとされています。反橋が架かる池は、古代の海岸線と考えられ、近くの御田^{おんだ}から海辺を好むハマヒエガエリが見つかり、その名残りと考えられています。



ハマヒエガエリ

大和川つけかえと十三間(堀)川

1698 (元禄 11) 年、津守新田^{つもりしんでん}の用水と屎尿船^{しにょうせん}の通船のため、木津川から住吉浜まで木津川の水を引き入れるため、幅 13 間(約 23m) の運河が開削されました。十三間堀川^{じゅうさんげんぼりかわ}の堤には柳や松が植えられ、住吉詣^{すみよしもうで}の川船で賑わったといわれます。1704 年の大和川のつけかえの時、高取植村藩負担^{たかとりうえむらはん}のお助普請^{おすけふしん}で住吉大社前から新大和川まで開削され、剣先船^{けんさきぶね}の航路になりました。住吉側には旧高燈籠跡地近くに「剣先船の碑」として、^{けんさきぶねたちよす ぼ う け し ょ}「剣先船立葭場請所浜口村、^{これよりきたよんじゅうごけん}従是北四拾五間」の碑が建てられています。



高燈籠跡地近くの
剣先船の碑

十三間堀川の上に阪神高速道路がつくられ、1981～1983 年に「せせらぎの小径」として改変されました。大和川の地下水^{じあせんそきん}を次亜塩素酸ソーダーで浄化して住吉川まで約1.5km導水し、岩石や樹木を配し、大和川を背に「剣先船^{けんさきぶね}」の碑が建てられました。1987 年～1990 年に樹木や花を植える第二期工事をしています。

建設道路と歴史的な濠や川の保存、市民に親しまれる水辺再生の課題は他の地域でも課題となっています。



大和川から取水してすぐの十三間堀川
左の石柱が剣先船の碑

河内の綿を集めた平野郷

宝永年間～宝暦年間（1704～1764）のころ、平野郷^{ひらのごう}の田畑の7割は綿作地でした。このころ平野郷の戸数は2,625戸、人口10,866人でその半数は商工業者でその大半は綿屋関係でした。

河内綿は糸にすると太く、布にすると厚くなり、帯や足袋^{たび}の裏地、旗や幟^{のぼり}などに使われ、実は綿実油・灯油に加工されました。平野駅西のイズミヤ付近は1887（明治20）年創業の平野紡績、後の日紡・ユニチカの跡地です。



「綿仲間」（1806年）灯籠
杭全神社内宇賀神社

杭全神社と環濠自治都市平野郷



杭全神社 拝殿 連歌所は手前右奥に現存

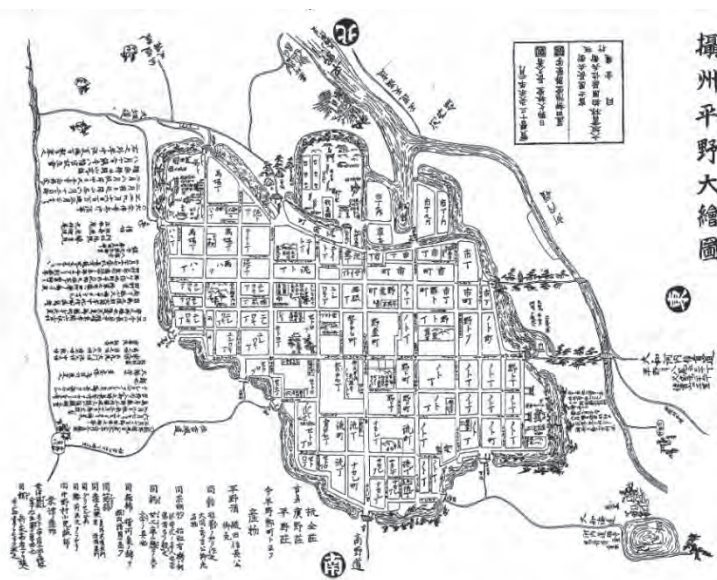
平安時代初期の征夷大將軍坂上田村麻呂^{さかのうえひろのまろ}の次男坂上広野麻呂^{しやうりやう}の所領だったことから、広野がなまった地名といわれています。杭全神社は、広野麻呂の子当道^{とうどう}が860年に祀った「牛頭天王社」^{ごずてんのう}がもとで、その子孫で平野郷の有力者七名家^{しちみやけ}が主体となって「御田植神事」^{おたうえしんじ}が受け継がれています。境内の大楠は樹齡1000年といわれ、大阪府の天然記念物

です。大坂夏の陣で焼失し、1708（宝永5）年に再建された、全国唯一現存する連歌所があり、連歌会を復活し連歌がさかんな町になっています。

1500年代の戦国時代に、平野郷は町の周囲に平野川の水を引き込み土塁の環濠をめぐらし、外敵から自衛しました。



平野環濠跡碑の前にある
平野郷町沿革碑



1763年（宝暦13） 攝州平野大絵図

「摂州平野大絵図」の杭全神社は環濠で囲まれ聖域化されています。平野公園内の「阿加留比売命神社」裏の池と土塁は環濠跡で、三方が堀で囲まれて描かれています。

平野郷は 1615 年の大坂夏の陣で徳川家康が本陣を置いたため大坂方に焼き払われ、残った家は 900 軒余といわれています。翌年家康は西末吉家の末吉孫左衛門吉康に平野本郷の復興を命じ、碁盤目状の町割りや環濠の整備をさせました。

各街道に通じる 13 の出入り口に木戸、遠見櫓と門番屋敷を設け、荷物の検査をし、警備をしました。地蔵堂を設け、旅の安全と疫病など凶事侵入を防ぐ祈願をしました。大念仏寺横の馬場口地蔵など地蔵堂が 11 残っています。

南蛮貿易の末吉船

末吉孫左衛門吉康は、徳川家康の朱印状を得て呂宋の日本人町を介して中国・明やスペインと交易し、シャム(タイ)とも貿易をして財を成しました。無事帰国できたことを神仏に感謝し、1627 年に杭全神社に奉納した末吉船の絵馬、1632 年に清水寺に奉納した絵馬が現存しています。1707 年に建てられた西末吉家の屋敷は現存し、国の登録文化財となっています。



国宝扁額 末吉船

旧大和川改修資金のための柏原船

子の末吉孫左衛門長方は、柏原船を創設しました。1600 年代前半に旧大和川(現長瀬川)の堤防決壊で大きな被害を受けた柏原村復興のため、代官の長方が幕府の許可を取り 40 隻で始めました。後に 70 隻になり、大文字屋(三田家)などの船問屋が街をつくりました。

柏原船は大和川堤青地樋から了意川を通り竹淵川から平野川を経て大阪天満まで荷物を運びました。大阪の商業活動の発展に伴い、計 70 隻で運営されました。平野館・茶柄杓・繰り綿・コンニャク・荷馬の鞍など平野の産物を市中に送り、平野へは米や干鰯などの綿花の肥料を運び込みました。

柏原船の舟入場は、杭全神社の南東にあり、1636 年から 1907 (明治 40) 年まで使われていました。現在の平野市町付近です。



1980 年代 旧柏原市文化会館前に保存されていた柏原船

民間の力 商人の知恵をいかした学校 含翠堂

大坂町人の学問所で有名な懷徳堂が 1717 年に開設されるより 7 年早く、含翠堂は土橋友直の活動に賛同した七名家が中心になってつくられました。身分の違いに関係なく、「読み書きそろばん」、大人向けには国学、儒学、算学、医学、天文学や俳句連歌などを教えました。1872 年学制発布で学校ができるまで続き、経営は寄付金で賄われ、飢饉の時には困った民衆を救うために町に寄付をしました。



含翠堂跡碑

歴史のぬくもりをいかすまちづくり

平野町づくりを考える会がスタート

阪神高速道路や地下鉄谷町線が開通した1980年、路面電車南海平野線が廃止されました。終点の平野駅舎の保存運動から「平野の町づくりを考える会」が生まれました。平野の再発見と歴史文化・伝統行事の保存継承に取り組み、1993年から「町ぐるみ博物館」を展開しています。



南海電鉄平野線終点 平野駅レール跡



2024年1月 全興寺で川口さん

平野町ぐるみ博物館

開館日は異なりますが、8月第4日曜日は「お宝発見スペシャル町ぐるみ博芸・博物館」としてコマ回しなどの伝承遊び、大道芸、昔話や紙芝居、講談なども行われます。

その一部を紹介します。

新旧のまちなみや寺社、地蔵堂などの文化財とともに、庶民が生活や商売で使った道具

をいかしたミニ博物館運動です。事務局は全興寺にあり、住職の川口良仁さんは、「おもしろいと思ったことは何でもやるねん」と言われます。町づくりを考える会は、杭全神社の連歌会再興や御田植神事保存会を続けて国の無形民俗文化財に押しあげ、平野の酒やコンニャクなどの名物も復興。提灯が似合う町並みの保存をめざしています。



小学高学年と中学生向け 2018年に発行

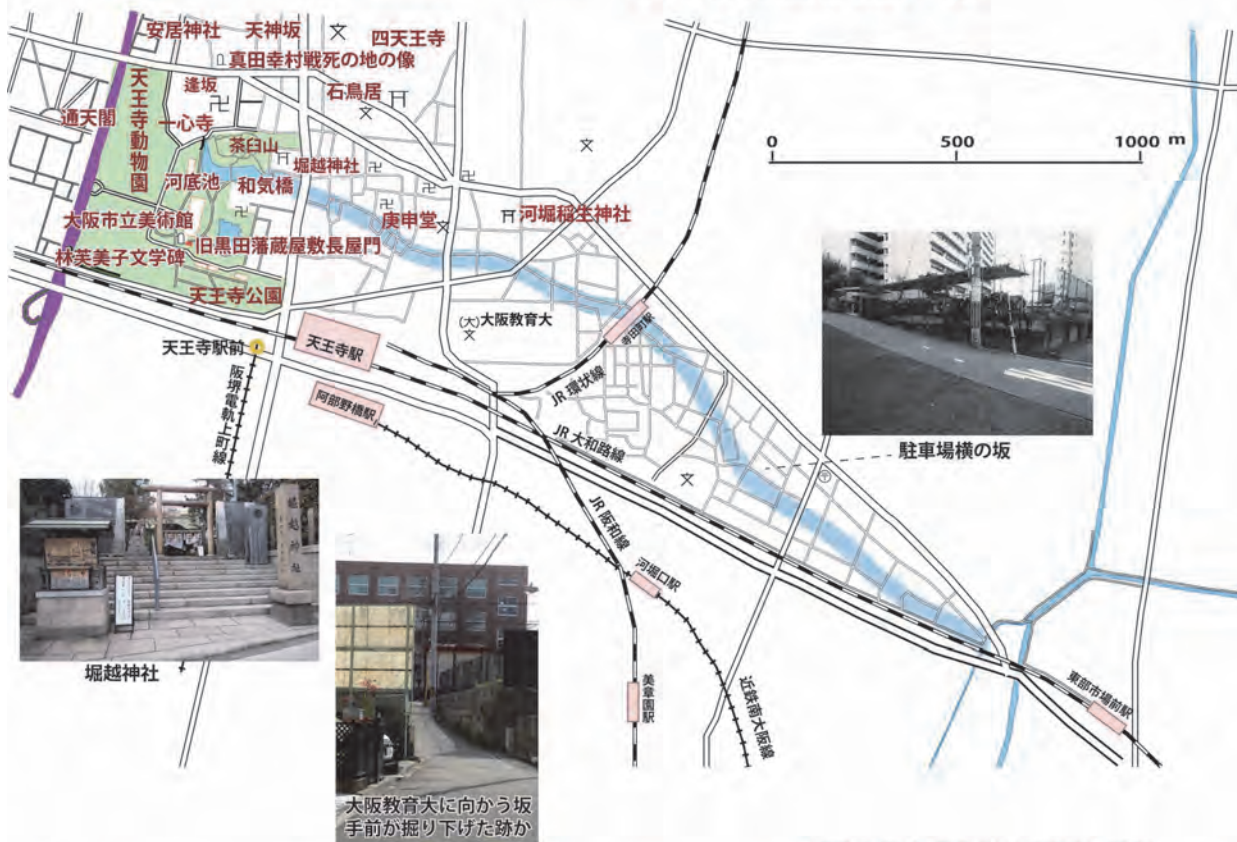


平野町ぐるみ博物館マップ 2024年版のマップに彩色
元の環濠

	駄菓子屋さん博物館 全興寺 聖徳太子が薬師堂を建てたと伝えられるお寺で、「地獄堂」と「ほとけのくに」があり、地獄と極楽を体験できるお寺としても有名です。 昭和 20～30 年代の駄菓子やおもちゃ、昭和レトロジオラマが人気です。(毎日)
	平野郷 綿とくらし 博物館 2023 年開設。撚り糸の製造を代々営んできた戎井家の大きなお屋敷の蔵の 2 階を開放。 綿くりから糸つむぎ、総づくりまでの道具や、綿花、昔の生活道具を展示しています (毎土曜)
	幽霊博物館 大念仏寺 (融通念仏宗) 年 1 回 (8 月第 4 日曜)、幽霊が残した「亡女の片袖」などが公開されます。本堂は大阪府内最大の木造建築。年中行事「大数珠繰り」は 5400 個の数珠を念仏を唱えながら、次々と手送りしていきます。5 月 1～5 日、極楽に人々を導く供養として、25 人の黄色の菩薩の仮面と衣装の仮装行列「万部おねり」が行われます。 門前に小林一茶の「はる風や 順礼ともが ねり供養」の句碑があります。
	新聞屋さん博物館 1889 年創業の大阪で一番古い朝日新聞の販売店・小林新聞舗で、アーチ形の窓がある大正風建築。 明治からの新聞や号外などが見られます。 (毎月第 4 日曜)
	パズル茶屋 おもろ庵 店主の黒田誠さんのコレクション、組木パズル・知恵の輪・移動パズルなど 100 種以上のパズルや昔の道具があります。町ぐるみ博物館の情報交流の場で、平野コンニャクなども販売しています。(毎日)
	くらしの博物館 がんこ平野郷屋敷 江戸時代初めの豪農・旧辻元家の屋敷で、1100 坪の敷地に主屋・長屋門・土蔵・茶室などがあります。座敷などが和食レストランとして使われ、所蔵の絵画や茶器などをくらしの博物館として公開しています。(毎日)

天王寺コース 探訪マップ

赤字は本文で紹介した施設・地名



住吉コース 探訪マップ

赤字は本文で紹介した施設・地名



は平野環濠跡

0

500

1000m



堺口地藏



南海平野線
メモリアル広場



くらしの博物館
がんこ平野豪屋敷
は JR 加美駅前です。⇒



大和川で南北にわかれた依網池と摂津五箇荘

堺市東北部・松原市・大阪市住吉区一帯は大和王権の直轄地で依羅屯倉と呼ばれ、「古事記」には崇神天皇が依網池を造らせた^{よさみいけ}と書かれています。
 灌漑用水^{かんがいようすい}を確保し、食糧^{しょくりょう}の安定供給をはかったことがうかがえます。



大依羅神社南からの参道
 阪南高校グラウンドなど両側は池の跡



昭和初期の大依羅神社 南向きの神殿
 1960年代に火事で消失。現在は東向きに再建されている

大和川の南北は一体 摂津五箇荘だった

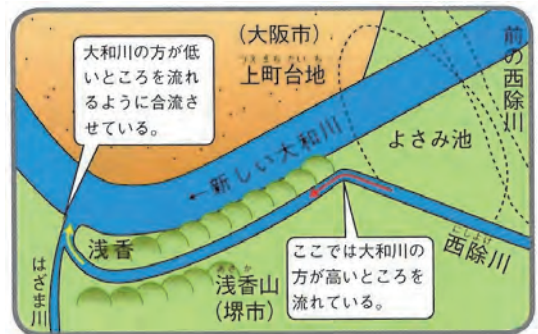
現在の大阪市住吉区の依羅・苅田・苅田北・苅田南と堺市北区の東浅香山・五箇荘^{ごかしゅう}・五箇荘東・新浅香山の各小学校区は、摂津五箇荘という地域でした。織田信長は堺を直轄し、今井宗久を五箇庄（花田村・奥村・庭井村・杉本村・我孫子村^{わごころ}・苅田村^{かつた}・大豆塚村^{まめづか}・船堂村^{せんどう}）の代官に任命しました。五箇荘我孫子には信長直轄の吹屋（鉄砲工場）があったと記録され、1980年代以後、我孫子鋳物師や苅田鋳物師の工房遺跡が見つかっています。

地下鉄あびこ駅やJ R杉本町駅、大阪公立大学（旧大阪市立大学・大阪商科大学）も含む地域でした。

この地域の中心に光竜寺川の水が注ぐ依網池があり、主に北側の村々の農業用水となっていました。今池を経由して西除川の水も引き入れ、浅い池ですが狭山池より広い時期もあったそうです。

大和川が池のまん中にやってきた

新しい大和川は、松原市辺りから南へ曲がっています。土地が低くなっている住吉方面へのルートがとれず、台地を横断させています。この部分を掘り下げ、元からあった浅香の谷（狭間川）につないでいます。
 依網池のまん中に大和川を通したのです。

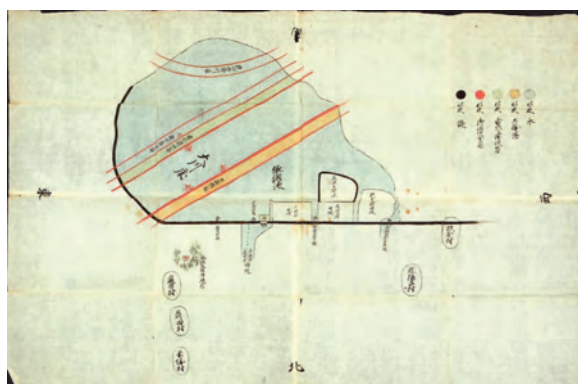


浅香山ふきんのようす

「わたしたちのまち堺」より（西除川に南からの光竜寺川も合流）



苅田鋳物師ゆかりの地 苅田北住宅に設置されているプレート



←寺田孝重氏蔵

「大和川
いけなかんつうみとりず
池中貫通見取図」
(共に北が下)

池中央に大和川床

両側に堤 悪水落堀筋

→ 大依羅神社参道の前に
立つ依網池址碑



荻田の庄屋・寺田家に残る「狭山池水系大絵図」は、新大和川による地域への影響を生々しく伝えています。



寺田孝重氏蔵

「狭山池水系大絵図」 (北が下)

(1570×1555mm)

狭山池水系～依網池が分断された

「狭山池水系大絵図」は元禄より前の江戸時代に作成されたと思われ、大依羅神社にも似たものがあります。しかしこの絵図には、大和川つけかえ予定ルートに白い紙がはられ、狭山池水系が分断されることの問題点を訴えています。

1703 年、大和川つけかえの動きに対して急いで反対の訴えに添えたものだそうです。幕府からの巡検使も大坂代官で堤奉行兼務の万年長十郎も受け取らず、返したために残ったと思われます。

この地は欠郡五箇荘で、中世の堺や平野のように、自治区のような地域連合体でした。七道村は200石で、100石は住吉大社領。100石は高槻藩領で、寺田家が庄屋を兼ねていました。ご当主寺田孝重さんは、「苅田村は大和川つけかえで土地がつぶれなかったのに、七道村の分断に抗議し、庄屋としての使命感でがんばったのではないか」と想像されています。

苅田に大和川つけかえ工事の役人が滞在した

幕府のお目付が大久保甚兵衛と伏見主水で、太田村と喜連村に滞在した後、5月25日から10月25日に工事が終わるまで、苅田の寺田家に滞在しました。ご馳走の支度はもちろん、馬の用意など世話一切が大きな負担だったと思われます。

つけかえ反対運動に力を入れた苅田への「イジメ」ではなかったかと寺田さんは推測。苅田は800石の村で、700石が高槻藩。100石は天領で大坂代官支配となっていました。つけかえ工事が終わると、この地の代官に万年長十郎がついています。

厄除けのお参りでにぎわうあびこの観音さん

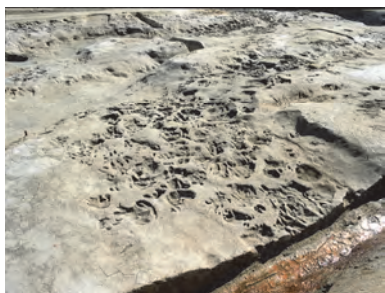
古代、豪族依羅吾彦氏が百済からの仏像を信仰し、聖徳太子が寺を建てた最古の観音霊場、吾彦山大聖観音寺となったと伝えられています。

節分厄除けの寺として有名で、たくさんの人が訪れます。

戦争前、大和川に橋が無かったため、現在の堺市常磐町・庭井新田の人々は節分だけ出る渡し船に乗り、歩いてお参りしたそうです。吾彦大橋ができたのは、1976 年です。



節分の我孫子観音 伝統行事の護摩焚き祈禱



我孫子南中学校玄関ホールで見学できる
ナウマンゾウとオオツノジカの足跡

ナウマンゾウや旧石器時代のロマンの地！

我孫子南中学校は山之内遺跡の一角にあり、あびなんミュージアムが設置されています。我孫子鋳物師の遺物など、原始からの地域の歩みを学ぶミニ博物館です。ホールには10 万年前からの地層断面と床の透明パネルから、現地保存されているナウマンゾウとヤベオオツノジカの足跡も見学できます。(平日に見学可能。事前にお問い合わせ ☎06-6698-6310)

大和川つけかえまで地続きだった堺市北区のイオンモールや高層マンションが建つ東浅香山遺跡でも、1 万年前の矢じりなどが見つかっています。古代の狩り場だったという記録もあり、西除川のすぐ南に「おかりば（お狩り場）公園」と名付けた公園があります。

新大和川の北と南

寺田孝重さんからのメッセージ



寺田孝重さん 2024年10月13日
～流れは未来～ 大和川つけかえ320周年
第17回「大和川の日」市民のつどい で

2022年11月、大和川の南側を歩き、狭間川や西除川の合流部などを初めて見学しました。

新大和川という川は、構造的には単純なものです。流路を決定し、その両側に堤防を造成しただけなのです。

ただし、工法的に困難な点としては、元々南北に河川が流れている場所に、東西の川を通すのですから、これらとの合流の際の力学的調整と、南北に連なっている、低いとは言えれっきとした台地の上町台地の掘削がありました。そして、その両方が顕在化したのが、我々の住んでいる五箇荘だったのです。

私が、大和川の北岸で地域の方々を案内するときは、荻田土地改良記念会館の航空写真で地域の概況を説明して

から、大依羅神社・依網池跡石碑・大和川北堤防・大和川の川岸・J R阪和線大和川鉄橋下・上町台地掘削跡・杉本町駅を順路にし、こちら側から浅香の駅など南側を見てはいたのです。

この地域の水路を見ていますと、西除川（天道川）筋や光竜寺川・依網池水系は当然南北方向になりますが、現在J R阪和線が走っている上町台地頂上部を分水嶺とする小河川や水路は、西流するものと東流するものに分かれます。

新大和川は、この台地を西側の堤とする、古代からの依網池を横切り、上町台地の中に狭間川がつけた西流する谷を利用すべく湾曲し、さらに七道村の手洗川をつぶして海に出ていますが、この時に西除川水系との合流部と台地掘削終了部に湾曲した流路が激突する遠里小野堤という弱点を残しました。ですから、明治初年の大水害をはじめ、大和川に関連する大きな災害がこの地域に多発しているのは、当然のことなのです。

このように、現地を見学しますと、地形的特徴が良く分かるとともに、温暖化によって起こる降雨条件の激烈化に対処する必要があるとつくづく思われます。



荻田土地改良記念会館 2025年3月



荻田土地改良記念会館 1階ロビー 絵図や航空写真展示コーナー
2024年 狭山池水系大絵図と大和川池中貫通図も加わりました

堺市北区常磐町3丁は庭井新田だった

堺市北区常磐町3丁と2丁(※)の大部分は依網池に拓かれた庭井新田でした。もともと池の南側は浅く、大和川つけかえの直前から新田開発が進んでいました。現在は大阪市住吉区の庭井村は、大和川つけかえで約3割の土地が水没し、左岸側の池が与えられています。

池跡の庭井新田には、柏原村の柏元家^{かしもと}が最初から1945年の農地解放まで経営にかかわっていました。小作人のお百姓は、収穫したお米を地主の柏元^{かしもと}さんの米蔵に運びました。



2020年、庭井新田の様子を証言される津山幸三郎さんと、
節分の渡しの船着き場に続く堤防上の地蔵さん
対岸は住吉区浅香

地元の人は「柏元^{かしげん}」と呼び、米蔵が1980年頃まで常磐町2丁に残っていました。新田会所は、小作料をとりたてて、幕府に年貢をおさめ、新田の人々や橋・道・水路などを管理する事務所の役割をしていました。

庭井新田の小作人だった津山幸三郎さんは1924年生まれ。子どもも田畑の働き手だったが、大和川と浅香山は子どもの遊び場。夏は泳いでしゃぎ、魚をとった。節分には渡し舟が出て、我孫子観音にお参りした。

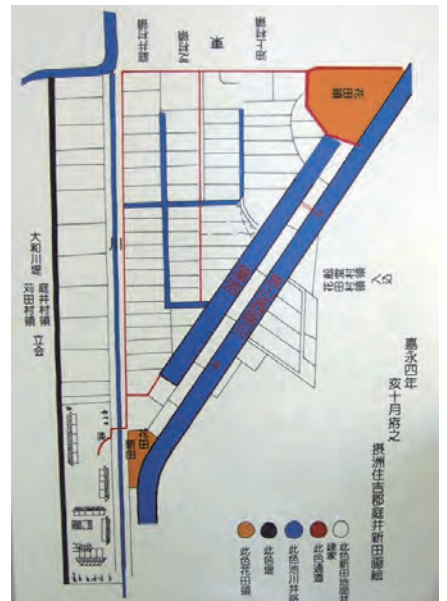
大和川で韓国の人が砂とりをしていた。河川敷に、ぶどうや桃がなっていて、飼っていた蚕のために、苧田の河川敷の桑の葉をとりに行っておこられたそうです。

庭井新田絵図があった

柏原市本郷にある柏元家の文書が柏原市立歴史資料館に寄託され、田ではワタや稲、畑ではワタや大豆が作られ、農閑期に藁細工や木綿で稼いでいたことがわかりました。

1942(昭和17)の航空写真と嘉永4年(1851)の新田絵図は、田畑^{ちわり すいろ}の地割や水路など、おどろくほど一致しました。庭井新田にも広い会所があり、住んでいた人は数人のようです。田畑には番号や名前があり、上中下^{じょうちゆうげ}などの評価がされて、年貢高^{ねんぐ}が決められ、近くの村からお百姓が耕作にきていたようです。津山^{かわべ}さんは、「川辺り」「いいでん」「まごろ」「さわら(澤田)」などの呼び名を覚えておられました。農民が納めた小作料を柏元家に届けた家も長く続いていました。

津山さんの家は、地図の「花田新田」という場所にありました、常磐浜寺線(今は地下鉄も走る)の道路建設のために立ち退きになり、東に移っています。



庭井新田絵図(左の大和川堤が北)
柏原市立歴史資料館作製の模式図

ポンプアップで大和川の水を引く

柏元家文書には、明治期に蒸気ポンプを設置し大和川から水を引いた記録もくわしく残っていました。ポンプ小屋は大和川堤の直下に建てられ、エントツ・インジン・井戸・汽罐（ボイラー）がありました。大和川まで伏樋を伸ばし、落堀川を伏樋で通過させた後、東方向の水路で田地へ給水していました。津山さんが覚えていた地元の管理人の名前も一致しました。

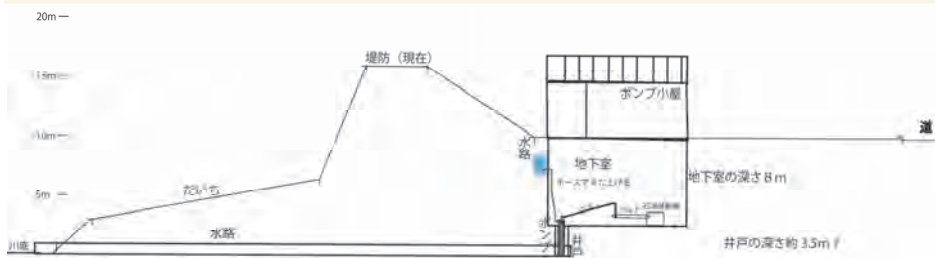
大正期に蒸気ポンプは電動化、後に発動機になり、故障が減りますが、設置や維持管理には莫大な費用が要りました。新田の生産力向上に給水施設がたいへん重要だったことがわかります。新田所有者が単独で給水ポンプを維持していたことは珍しいことでした。



吾彦大橋を西南からのぞむ この堤防の下辺りが庭井新田会所の跡で、明治以後に大和川から取水したポンプ場があった

大和川（左）から堤防の下に土管を通してポンプ小屋の地下に水が送られていた仕組み

津山幸三郎さんの記憶にもとづいて作成



古代の都に続く難波大道

1300～1400 年昔、船でやってきた外国のお客が難波津に着き、奈良や飛鳥の都に向かうため、堺と大和（奈良）を結ぶ道が2本つくられました。長尾街道と竹内街道です。

今の大阪城南にあった難波の宮から一直線でひいたのが、難波大道です。大道のあとは摂津と河内の国境でもある、堺と松原の境界で見つかり、はば 17m、側溝のある大きな道とわかりました。この大道が、南花田で長尾街道、金岡で竹之内街道と直角に交わっていました。人や物を乗せた輿や馬、歩く人々の行列が通ったと想像されています。

現在も大阪市中央区法円坂の朱雀門跡からまっすぐの道跡をたどることができ、住吉区と東住吉区の境、堺市北区常磐町と松原市の境を通っています。



今池水みらいセンター建設前に発掘された難波大道 発見された両側の側溝の間に 23 人が並ぶ 1980 年

（※）堺市では旧堺市の伝統から、「丁目」をつかいません。

1982 年水害と西除川

1982 年 8 月 1 日台風 10 号が通過、3 日台風 9 号くずれの低気圧によって柏原上流域で 12 時間雨量 146mm を記録。

写真を提供された堺市北区常磐町 2 丁の津山敏夫さんのお宅は、押入れの仕切りの上まで水に浸かりました。多くの家で、畳を干してやれやれと思った後に再び被災しました。

堺市では東浅香山町・常磐町・東雲東町・北花田町で床上 391 床下 345 計 736 戸が浸水しました。



新日鉄住宅（現おかりば公園とマンション）と民家と電柱の間の西除川と道路の境が見えない 1982 年 8 月

洪水前からあった西除川放水路の計画

1960 年代、「100 年に一度の洪水を防ぐために」西除川放水路（しょうすいろ）の計画がすすんでいました。浅香山の松並木が続くこの辺りで土地を借りていた大勢の人が立退きさせられたそうです。常磐浜寺線道路が開通したのは 1973 年で、そのためにもたくさんの家が立ち退いています。

しかし大阪側で買収ができず、工事進行のメドが立たないまま川底となる池が掘られ、常盤橋が架かっていました。そのすり鉢状の池のまわりは虫採りで人気の草むらで、1973 年 6 月、五箇荘小学校 2 年生だった安元修司君が落ちて亡くなりました。

住民有志が「子どもを事故から守る会」を作り、「危ない池を埋めて、安全な遊び場に」と活動しました。大阪府は事故の責任を認め、柵を補修し古家や野井戸・防空壕（ぼうくうごう）を撤去し、池を埋めましたが、周囲はポプラの育苗場となりフェンスがめぐらされました。

激甚災害指定ですすんだ西除川の整備

被害は戦後最大となり、「河川激甚災害対策特別緊急事業」の指定をうけ、災害復旧事業がすすめられました。西除川の①河道改修②放水路開削③灌漑（かんがい）ため池（狭山池）の治水ダム化が内容でした。

●大和川から西除川本川を望む/完成時



大阪府 「西除川激特事業のあゆみ」
(1986 年 6 月) より



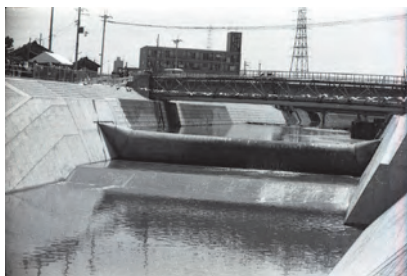
2025 年 3 月 大和川に注ぐ西除川河口
サイクリングロード整備で新しく浅香山橋ができた

河道改修は松原市域と堺市の放水路から浅香・大和川合流点までの区域で行われ、川床を掘り下げ、川底に薄層流浄化事業も実施されました。川底に礫（れき）をしきつめて瀬をつくり、自然の力で川の自浄力を高めようとするものでした。

しかし川はコンクリートブロック積護岸で固められ、J R浅香駅^{こうかんやいたごらん}から下流は鋼管矢板護岸の巨大な壁がまちをふさぐ整備とならざるをえませんでした。

常磐町2丁の放水路計画も一気に進みました。西除川の水かさが増した時、ここで大和川に流してしまうものです。

普段はゴム(ラバー)製の袋をふくらませて水をせ



常盤橋と1985年6月竣工したラバーダム
橋のたもとに修司君の地蔵さんの祠ができた



捷水路 対岸から2022年
ラバーダムがしぼんでいる

きとめ、元の大和川へ流し、大雨になると空気を抜いて、大和川に流れるようにしています。

工事計画変更で1970年建造の常盤橋は、歩行者だけが通る橋になっています。

こうした堰^{せき}は、奈良県の大和川支流にも多くあります。農業用水確保が目的のようですが、魚が遡上^{そじょう}できず、水が淀みゴミがたまるなど問題があります。

西除川の改修の今

2018年9月4日の台風21号、9月30日の台風24号は大阪でも記録的な暴風雨で高潮被害を残しました。大和川でも雨量は1982年水害を上回り、柏原水位観測所での水位は1982年10号台風で4.64m、2018年21号台風で5.78mを記録しました。しかし、洪水被害は限られ、流域での災害対策がすすんだと評価されています。

阪神高速大和川線と西除川

堺市築港八幡町から松原市三宅までの9.7kmの阪神高速大和川線は1999年に着工。2020年3月全面開通しました。三宝地区から南海高野線までは、高規格堤防整備にあわせた事業です。

J R阪和線より上流側で西除川の地下を通っています。沿線となった住宅の立ち退きや、2008年から西除川の上部にふたをしての工事による騒音や振動、空気汚染などによる健康被害もありました。

狭山池は、平成の大改修を経て洪水調節機能を備えた新しいダム式のため池として生まれかわりました。

2021~22年にかけて堺市東区の北野田周辺で川幅を広げる工事や井堰の改修が行われました。放水路から

下流の西除川の復旧工事が進み、2023年春に遊歩道が開放されましたが、上浅香橋より上手はコンクリート張り、下手には浅香川が合流し川はきれいですが、フェンスで川には近づけません。



2021年8月 西除川復旧工事中



2025年1月 橋から上手
(堤防の下にテラスや階段
人の気配が無い)



下手(草や木があるが施錠
されている。川を見下ろす
遊歩道は活用されている)

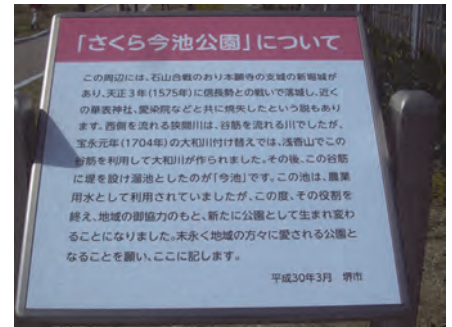
浅香の曲がりと狭間川

今は、浅香で狭間川が西除川に合流し、すぐに大和川に合流しています。ここで、大和川は大きく曲がっています。

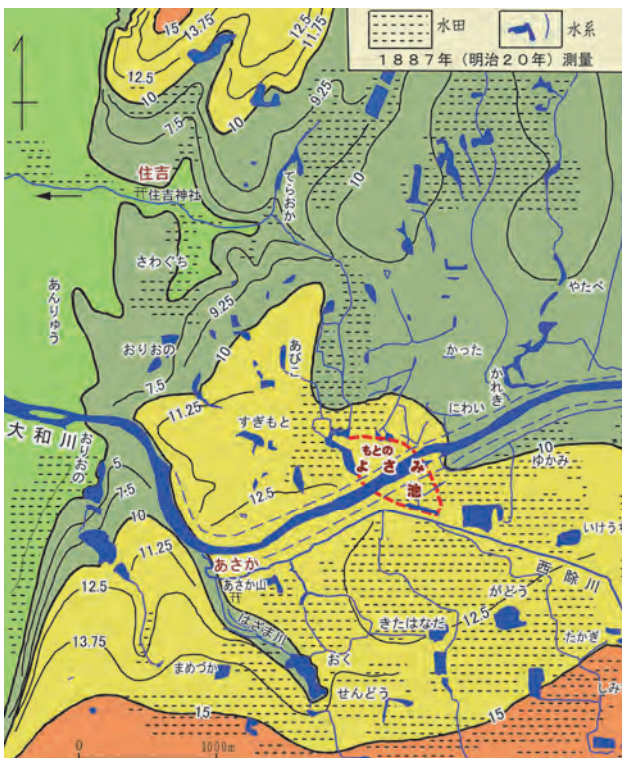
幕府の役人に千両（2億円）払って土地を守った「千両曲がり」だ、狐山を避けたのだ、岩盤が硬かったから避けたのだなどと言われたりしましたが、あやしいようです。上町台地は砂や礫が積もった洪積層です。

地形を確かめてほんとうの訳をさぐってみましょう。

大和川と西除川がやってきた



狭間川に大和川がやってきた・・・と伝える
さくら今池公園の看板（船堂町）



「大和川つけかえの秘密をさぐる立体地図」
1887年測量地図をもとに作成

姫路藩と浅香山

1704年2月、大和川つけかえを上流側は幕府が、下流側はお手伝普請を命じられた姫路藩が海から工事を進めました。浅香山で苦勞していた3月、藩主の本多忠国が亡くなり、家臣が全員引き上げて工事はストップしてしまいました。幕府はすぐに工事再開へ動き、岸和田藩・三田藩・明石藩の藩主に命令して工事を引き継がせました。3つの藩が競い合って工事を進めたことが予定以上に早く、7か月で工事を完成させることになりました。

1704年より前には狭間川だけが流れていて、大和川と西除川が浅香の谷につけられました。古代には船堂（せんどう）辺りまで大阪湾からの入り江で、古墳築造の物資が運ばれていたと推定されています。

この地域では北西へ自然に低くなっているのがわかりますが、住吉大社など大きなまちにつながります。

一方、西南には依網池や狭間川（浅香の谷）がありました。そこで台地の部分を9mほど掘り下げて狭間川に合流させたようです。

その土で依網池をうめ、新田がつくられました。南からの水が新大和川の堤防でさえぎられるため、落堀川をつくり、北に流れていた西除川も高木（現松原市）から西へつけかえました。

浅香山稲荷神社には、大和川つけかえ工事の後に、大和川つけかえ工事奉行大久保大隅守忠香が寄進した石灯籠が立っています。1704



大久保奉行が寄進した一対の灯籠



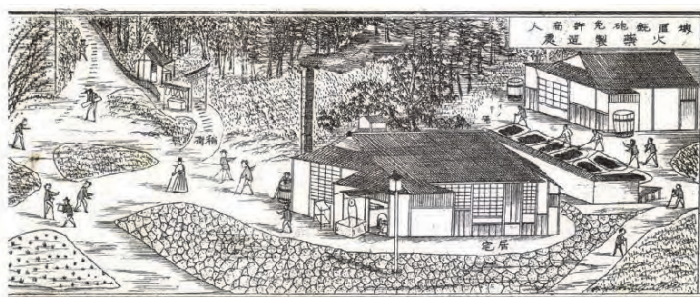
「稲荷大明神御神前 奉寄附手水鉢一基 安全祈禱 宝永二酉十二月吉辰 川口奉行」と刻まれた手水鉢

年11月5日、甚兵衛忠香が大坂西町奉行に就任した日付になっています。翌年12月に川口奉行が寄進したと刻んだ手水鉢もあります。

火薬工場やきつね伝説のある浅香山



「住吉・堺名所并ニ豪商案内記」



(1883・明治16年)より 堺市立中央図書館蔵 中央に稲荷 左に水車が見える

明治時代の浅香山には、狭間川の水で回す水車を動力に堺の鉄砲のための火薬工場がありました。昭和の初めころまで、海辺の堺のまちから見える低い山で、遊園地計画もあった貴重な山里でした。人々は松林で茸とりや柴刈りをし、1950年代ぐらいまで小学生の遠足の地でした。

・・・2つのきつね伝説・・・

「大和川つけかえを助けたきつねたち」

大和川つけかえ工事がなかなか進まず、狐塚の前では前日掘った所が元に戻ったり、ふしぎなことが続きました。姫路の殿様が亡くなり、狐の祟りだと恐れた人々が護摩を焚いて狐の供養をすると、夜中に狐が工夫に化けて工事を助けたということです。

「きつねの嫁入り」

むかし、堺の大きな料理屋さんに注文があり、主人が料理を届けました。夕方みごとな花嫁行列が着き、にぎやかな宴会となりました。主人はいい気分で寝てしまい、朝目ざめると、あたりは草っぱら。もらったお金は木の葉だったかほんものだったか、どちらの話もあるそうです。



浅香山稲荷神社 南から



浅香山稲荷神社「きつねの嫁入り」

浅香山浄水場と水辺の楽校エリア

大和川は堺市民の命の水だった

堺市の水道事業は1910（明治43）年に始まりました。淀川や石川などからの取水も検討されましたが、近くで水質の良い大和川が選ばれました。

当時ここは向井村で、灌漑用水の不足に悩んでいました。そこで1897（明治30）年に蒸気機関を設置して大和川の水を汲み上げ、2063m南の南今池まで土管で送り、流下させて田に入れました。収穫を大幅に増やし、全国的な先進例として注目されていました。

「堺市上水道小誌」（1913年）は、「伏流水があり向井村取水後も余水がある、干ばつの際にも節水して35日間維持できる沈殿池を造る、防火用にはしない」などの条件で、1906



2002年頃
浅香山浄水場への取水口

年の堺市議会が堺市民5万人余に給水する水道事業を決定したと記しています。

しかし、向井村水利組合や三宝村、対岸の町村が異議を申し立て、内務大臣に延期を求める陳情書を提出。次の議会で水道委員会設置議案を否決。さらに警官臨席議会などを経て、夏期減水期対策や取水場所を下流にするなどの修正をして、1907年6月ようやく水道委員会設置議案が通過しました。堺市は渇水期の不足を補うために井戸を掘るなどしま

したが、向井村や三宝村などを合併して給水人口が増えて慢性的な水量不足となり、1955年から府営水道浄水を入水。浄水場沈殿池の堤に植えたつつじを1956年から一般公開して市民に親しまれましたが、1970年代には水質が悪化。1978年には大和川からの取水をやめるなど、様々な困難がありました。

大和川の水は水道水に適するまできれいになりましたが、浄水施設は2010年に撤去され、府営水道から2つの高架貯水池で受けて市民に送水するとともに、災害時に備えています。

大和川水辺の楽校エリアであそぼう

「水辺の楽校」は、身近な水辺を遊び場や自然学習の場として利用し、子どもたちの自然体験や生活体験を補うことを目的にした国土交通省のプロジェクトです。大阪府内で唯一の「楽しいんやさかい大和川水辺の楽校」は2009年8月にスタートしました。現在は堺市や地元連



2023年4月 みんなの大和川 野外展示

合自治会、関西大学などが協力して「大和川水辺の楽校協議会」が運営。春の連休中に「水辺の楽校」まつりをするとともに水質調査を続けています。

大和川市民ネットワークは、2018 年から、この時期に「みんなの大和川」展示・交流会を開催。きれいになった大和川とつつじが同時に見え、なつかしい大和川の写真や理解を深めるパネル展示が好評です。



2022 年 6 月 大和川かんさつ・あそぼう会

川とあそぼう♪大和川クラブは、近くの小学校の協力を得て、かんさつ・あそぼう会をしています。大和川市民ネットワークは、9月の会の午後に「川のみりよく発見交流会」をし、高校生やユーチューバーの発表などで学び合っています。

水辺の楽校エリアにはトイレや足洗い場、堤防に広い階段があり、いつでも水辺活動が楽しめます。大和川では、河口から上流河合町までのサイクリングロードを造り、堺市遠里小野町と奈良県三郷町に「かわまちづくり」拠点施設づくりを進めています。

大和川を楽しむ人がさらに増えるでしょう。

大和川の魅力を伝える晶子さん



大和川与謝野晶子歌碑 アユが泳ぐ川をイメージ



裏に解説や写真を紹介している

堺市堺区甲斐之町西、与謝野晶子の生家は和菓子の駿河屋で、家中の蚊帳を大和川で洗うのが年中行事でした。幼い晶子は蚊帳と一緒に荷車に乗せられて川に行きました。



2013 年 与謝野晶子歌碑除幕
お祝いの水辺活動

「砂白き新大和川わがまちにさかひ少女の淨かれと添う」と、少女たちが大和川のように美しくありたいと親しんだ様子を詠っています。

与謝野晶子の歌碑は、きれいな大和川への再生を願って大和川市民ネットワークが呼びかけ、370 人余の賛同で 2013 年 9 月に建立しました。さかい利晶の杜でも紹介され、堺の晶子碑ベスト 5 に選ばれています。

遠里小野村と七道村を貫いた大和川

大阪市住吉区遠里小野と堺市堺区遠里小野町は、元はひとつの村でした。

摂津国一之宮住吉神社御境内領地絵図面で赤で太く描かれた道は紀州街道です。大和川つけかえ後に一つだけ造られた公儀の大和橋が架かっています。七道村の中央を紀州街道が通り、熊野街道が遠里小野村居村の中央を通り、大和川が村を分断してつけかえられたことがわかります。

江戸幕府は、大坂だけに菜種油づくりの独占を許し、問屋に集められた油は江戸で米の 10 倍の値がついたそうです。特に遠里小野村でさかんで、住吉大社の灯明の油を納めていました。



近世住吉社領と村落の領域

『摂津国一之宮住吉神社御境内領地絵図面』を加工（住吉大社蔵）

明治には熊野街道に板橋が

大和川つけかえで行き来が不自由になった村々は、渡し船や船橋、板橋などを架けるように願い出ています。

遠里小野では、明治期に熊野街道に板橋を架け、増水で流されて幾度か架けかえています。

この写真には、砂州に架けた橋を堺から大阪の遠里小野へ歩く人の姿や砂取りの船、大阪側に木か竹で作った水制*が写っています。

（※流れの勢いを弱めるために水中に設ける工作物）



1902 年頃の大和川 「堺大観」堺市立図書館蔵 より

大和橋と住吉大社神輿のお渡り

7 月 30 日からの住吉祭の最後に、堺の宿院頓宮（御旅所）までの神輿渡御が行われます。霰松原と呼ばれた松林が続く紀州街道を通って、神輿を担いで大和川に入る「お渡し」は、1960 年からとだえていましたが、2004 年に復活しました。お神輿は中洲での神事後、大阪側から堺側の担ぎ手に託されます。



2011 年 大和川橋の東側 右奥に阪堺線鉄橋 堺側の担ぎ手の皆さん

遠里小野は古代の朴津(榎津)



左のビルが遠里小野遺跡の跡 市営遠里小野住宅
右のビルが榎津寺の跡 OPH杉本町

1988 年、
遠里小野住
宅建てかえ
で見つかった遺跡で、
飛鳥時代末
の 2 階建て
以上の楼閣
建物があっ
たようです。

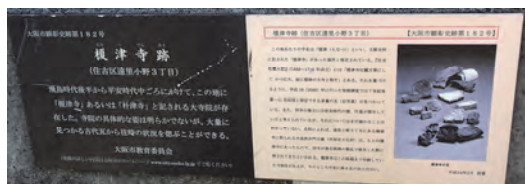


6～7世紀ころの摂河泉景観

(日下雅義「地形からみた歴史」より一部)

海岸線がすぐ西にあり、沖を行く船を管理・監視する大型建物だったのではないかと想像されています。2007 年には、西側で難波の宮の宮殿の建物クラスの大きさの大型掘立柱建物跡が見つかり、港湾管理の役所ではなかったかと推測されています。

この辺りは、住吉津と並ぶ朴津(榎津)という良港で、入り江になっていました。飛鳥時代の立派な瓦が遠里小野 3 丁目辺りの広い範囲で見



OPH杉本町団地入口の顕彰プレート「榎津寺跡」

つかり、「^{そうい}壮麗 広大な榎津寺があった」という記録を裏付けています。

大和川の水害を忘れない

大和川つけかえや、その後の水害時に堤防を補強するために墓石や地蔵を積んだと伝えられています。熊野街道の大和川堤防の雲上地蔵尊や、熊鷹大神などと刻んだ丸い石が、改修工事で見つかり、近くに「水防碑」が立てられています。

『洪水図説』は、1868 (慶応 4 明治元) 年水害の様子を描いています。



雲上地蔵尊と右端に丸い石 1954 年に建立

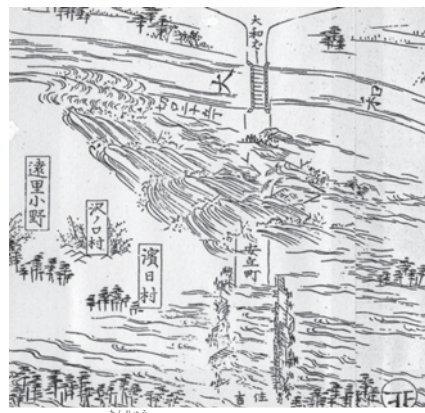


水防碑 1980 年建立



農神社碑と遠里小野村編入記念碑

豊作祈願や雨乞いの神事が行われた農神社には、遠里小野村の大阪市編入を伝える碑があります。
だいいおさか
大大阪を目ざして周辺合併をすすめ、1925 (大正 14) 年、44 町村が編入され、大和川右岸の町村の多くが大阪市になりました。



「洪水図説」安立町～大和橋が紀州街道 奥が堺

赤字は本文で紹介した施設・地名

赤字は本文で紹介した施設・地名

1000 m





緑地として公開されている 加賀屋新田会所跡

住之江公園を後に南下すると、閑静な住宅街に現れる広大な屋敷が「加賀屋新田



加賀屋新田会所跡（加賀屋緑地）
入園無料・10時～16時・月曜休園
大阪市住之江区南加賀屋 4-8-7

会所跡」。加賀屋甚兵衛が、新田開発の拠点として創建しました。商人の別荘でもあり、庭園や茶室を備えたくつろぎと客を迎える接待の場でもありました。

加賀屋甚兵衛は、富田林出身で大坂淡路町の両替商加賀屋に奉公し、35歳で独立。1723(享保8)年から新田開発にたずさわり、本業をやめて新田開発に打ち込みました。1754(宝暦4)年に検地を受け「加賀屋新田」と名付けました。

大阪府内では東大阪市の鴻池新田会所跡と、八尾市の安中新田会所跡がありますが、大阪市内に唯一残る貴重な新田会所跡です。

加賀屋新田会所跡は、「加賀屋緑地」として大阪市が10年以上をかけて調査や補修、整備を行い、2001年に一般公開されました。敷地 4823m²(約 1500 坪)の広大な会所跡には、加賀屋甚兵衛が財を惜しまず造った、屋敷と庭園が広がります。

中に入ると、一風変わった門がみられます。鏑木門と呼



鏑木門・正面は書院の玄関

ばれ京都、大徳寺の瓦門

を模写しアーチ型となっています。京都の相国寺の有馬頼底管長の筆による「古見堂」の額は「古きを訪ねて新しきを知る」の意味です。

緑で囲われた小路の奥が書院です。新田会所は開発した新田を管理する所で、改帳（現在の戸籍）の作成、河川や橋、樋門、道の管理補修や、年貢の徴収などを行っていました。

また文化人が集うサロンでもあり、この書院で交流が繰り広げられました。部屋は1754年の建

築当時のままと伝わり、入口の額には「祥鍾福集(めでたきを集め、福を集める)」が掛けられ、玄関と八畳、六畳の部屋と続きます。玄関横の天井に使われた杉の一枚板や、梁の長い丸太、桐の浜千鳥の透かし彫り欄間など、贅の限りを尽くした造りです。書院から居宅へ繋ぐ廊下は松の板が敷かれ、居宅には釜戸や井戸が復元されています。

居宅の隣は数寄屋風茶室「鳳鳴亭」で、大徳寺貫主の直筆（1800年代初期）の額が掲げられています。広間には茶席や水屋、珍しい高床式の舞台造が施され、文化



贅をこらした茶室外観。庭や池がよく見えるように、廊下部分を広くせり出し、屋根を軽くするため銅板葺き

12 年(1815)頃に造られたと伝わります。「鳳鳴亭」の名は庭園から眺めると、舞台造りの高床式の柱組で、屋根を鳥の羽に柱を脚に見立てると、鳳凰(中国で創られた孔雀に似た想像上の鳥)がまさに飛び立とうとしている様に見え、名付けられたそうです。四季を彩る樹木が覆い茂る庭園は、小山が築かれ心字池(心の漢字を模写した池)を周る回遊式となっています。池には大きな鯉が泳ぎ、石橋を渡ると餌が欲しいのか、足音だけで寄ってきます。この池は昔、井路(田んぼの水路)から十三間堀



休憩所の「明霞亭」淡路島や六甲、生駒などの山々が見渡せた

明霞亭 元は2階建てだった。正面が残された老松の階段。

「明霞亭」は 1945 年7月の空襲で焼失し、老松の階段と礎石だけが残り四阿として再建されました。豪商の文化の高さや粋人ぶりが、伝わってきます。

高崎神社 高砂神社と 佑貞寺

高砂神社は加賀屋甚兵衛が故郷富田林貴志の水分神を、1737 年新田開発にあたって勧請。1755 年には河口に高崎神社を勧請した後、現在地に移築したと伝わります。

北島新田の開拓は、堺の豪商小山屋久兵衛がかかわっています。牛の玩具を持って遊ぶ愛児を 5 歳で亡くした両親が悲しみにくれて仏門に入り、佑貞の名を賜り、屋敷をお寺としたのが 1755 年です。



会所近くに残る防空壕 建築業者が造った頑丈な造りで、電気もひいていたそうです

明治初めに境内に北島小学校ができています。遠里小野の安養寺で少年時代を過ごした与謝野鉄幹は、この寺のお坊さんにかわいがられ、寺の書物を読み、堺の漢学塾に通って勉強したそうです。大和川の板橋を渡って行ったことでしょう。



佑貞寺

大和川の下流～河口域のいきもの

1960年代以後水質が悪くなった大和川下流域にはセスジユスリカ・ミズムシ・イトミミズ類・ヒル類などが多い状態が続きました。しかし、行政や市民の努力で2004年には、41年ぶりに環境基準のBOD値5mg/L以下となり、きれいな水に生息するいきものが増えています。

海水が満ち引きする感潮域では海のいきものが行き来し、大和川には在来種も多く生息しています。下流から河口で見られる動物や植物の一部を紹介します。

ニホンウナギ

ニホンウナギは、日本の川からフィリピン近海の海まで移動し産卵します。大和川河口域には泳ぐ力の弱い白っぽい透明な稚魚が多く見られます。シラスウナギ漁がさかんで、浜名湖の養殖ウナギ業者に売られています。

遡上^{そじょう}が始まると黒っぽく変色し、「クロコ」と呼ばれる成長段階になり、数10cmの成体も多く生息しています。



2022年6月
浅香で小学生がすくったクロコ

アユ

アユは川や海などを回遊し、石についた藻類を食べるという習性から、水質が良くて藻類が繁茂する環境のある河川に生息します。

成体のアユは遡上した河川を下って下流域で産卵します。そのために魚道を整備するなど、アユがすめる環境に適する努力が続いています。



2018年6月 浅香で高校生が投網でとったアユ

大和川の天然アユ復活は2004年に確認され、かんさつ会でも見つかっています。

マハゼ

大和川の河口域から下流にはマハゼが多く生息しています。産卵期は1月～5月です。夏には全長5cm～10cmほどの若い個体が海岸のごく浅い所や淡水域にも現れます。これらの若魚は小動物を捕食しながら急速に成長し、冬になると次第に沿岸の深場へ移動します。



マハゼ 15～25cm

ほぼ年中漁獲され、旬は秋から冬にかけてです。美味しい白身魚で、天ぷら・唐揚げ・刺身・煮付け等様々な料理で食べられます。

テナガエビ

大和川の河口域から下流にはテナガエビが多く生息しています。長く発達したハサミ脚^{あし}が特徴です。夜行性で、昼間は石の下や護岸の穴やテトラポッドの下、水草の茂みに隠れています。曇って陽が照っていない時であれば昼でも活動し、姿を見ることができます。



テナガエビ

モクズガニ

大和川の河口域から下流にはモクズガニが多く生息しています。甲幅は7-8cm、体重180gほどに成長し、川に産するカニの中では大型種で、ハサミ脚に濃い毛が生えるのが大きな特徴です。



浅香で見つけたモクズガニ 2018年

セイタカヨシなどの植物

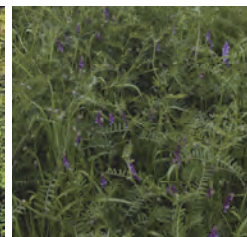


セイヨウカラシナ

大和川には、ヨシ(アシ)よりセイタカヨシの方が多く、多年草で、高さ4~6m。ヨシのように先が垂れ下がり、^{かた}下面はザラつき、先は硬く、長い尖鋭形です。花期は8~10月です。



大和川のセイタカヨシ



ナヨクサフジ

春先には紫色のナヨクサフジ、夏にはセイバンモロコシが多く見られます。セイヨウカラシナは1月ぐらいから育ち、春先に花をつけ大きく伸びて枯れます。若い葉やつぼみはおいしく食べられます。

何種類もの野鳥でにぎわう大和川

西除川河口の崖にカワセミが生息し、野鳥ファンが集まっています。

水がきれいになり、カルガモなど年中いる鳥や、秋~冬にやってくる渡り鳥が増えています。



カイツブリ



コサギ



オナガガモ



ヒドリガモ



オオバン



カワウ



ハシビロガモ



ヨシガモ



イカルチドリ



ハクセキレイ



オカヨシガモ



コガモ



モズ



カワセミ



マガモ



カルガモ



ホシハジロ



キンクロハジロ

24.12.14 大和川の野鳥かんさつ会

作成：和田太一（鹿港ウェットランドグループ）

浅香で見られる留鳥と冬鳥

和田太一さん作成の資料

2024年12月浅香で見つかった鳥 カモの仲間

大和川がつくった三宝新田の今

この辺りは七道浜(七度浜)と呼ばれる海辺でした。大和川つけかえの後、河口に運ばれた大量の土砂で陸地が広がり、河口に次々と新田が拓かれていきました。

三宝は、1889(明治22)年、町村制の施行で生まれた村の名で、共に宝暦年間(1751年～)に開発された南島新田・山本新田・松屋新田にちなんだものです。開発は何期にも分けて行われ、未開発のまま他人に譲られたものもあり、開発の権利者が次々に変わっています。

新田では棉・菜種・藍など、後には大根・かぶら・すいか・さつまいも・きゅうりなどが栽培され、明治期には、新田すいかや浜いもの名で、大阪辺りの人気商品になったそうです。

1890年代以後、浅香工業や大日本セルロイド(ダイセル)、三宝伸銅、昭和アルミなど金属・化学工場が密集する工場地帯となりました。さらに臨海工業地が造成され、製鉄・ガス・電気コンビナートに隣接、阪神高速湾岸線などの道路網がめぐり、1970年代初めにぜんそくで苦しむ患者が多発。「堺から公害をなくす会」は三宝地域から生まれました。

新田の氏神さん 月洲神社

月洲は、もと附洲と書き、大和川の土砂で付いた洲が地名になっています。月洲神社は南島新田の氏神でした。

新田づくりの失敗が続いた後、1728(享保13)年から河内国油上村の土橋弥五郎が大坂の加賀屋甚兵衛と共同で大和川の北と南で新田を開発しました。風波に苦しめられながらの開発で、1737年、土橋弥五郎が海上安全などの神である生国魂神・住吉神・水分神を勧請したのが月洲神社の創始だそうです。

南島新田ができた1751(宝暦元)年に、北島新田・加賀屋新田も拓かれています。



月洲神社

新田の氏神さん 田守神社



仮移転中 2022年の田守神社



力石*も並べて保存



移転(遷座)前 2004年の田守神社

※力石は月洲神社にも保存されています。大正時代、河内などの村相撲がさかんな地域などで米俵にかわって、若者たちの力比べに使われました。150kgほどもある大きなものが残り、神社に保存されたようです。

松屋新田の氏神、田守神社は大和川の堤防の真下にありました。1745年に建てられたと伝えられ、新田居住者の願いがこもった波除不動や、1916(大正5)年の小作争議和解の記念碑などが残っています。

阪神高速大和川線と高規格堤防整備のため、2014 年に遷座され、御神木チシャノキも移植されましたが、高規格堤防完成後、2025 年再遷座へ作業がすすんでいます。

風水害と塩害に苦しみ続けた新田地域

海岸に面した新田は、「沖切れ」と呼ばれた堤防の決壊や、水路の塩害など、災害とのたたかいが続きました。

1934（昭和9）年9月、近畿地方をおそった室戸台風は、堺の海岸部に大きな被害をもたらしました。浸水状況は、大和川つけかえ前の海岸線を復元したかのようだとされています。



松屋大和川通の大和川堤防の真下にあった、1934年建立の有縁無縁仏と1978年建立の大和川水死者慰霊碑（現在は鉢ヶ峰公園墓地に移動されている）



三宝小学校前の顕彰碑

三宝小学校では、室戸台風で児童55名が学校外で亡くなりました。学校の正面の顕彰碑には、「栗山先生は室戸台風の際児童を助けて殉職、小椋先生は1945年7月の空襲、南先生は同時期に学童疎開地で殉職」と刻まれ、海岸地帯の悲劇を今に伝えています。三宝こども園のとなりに関西大風水害殉難者慰霊碑が建てられています。

※1927年、現在の大阪臨海線に路面電車「新阪堺鉄道」が敷かれ、山本の三宝車庫前を起点として、終点芦原橋まで開通しました。1934年には大浜の南、湊の浜（出島）まで延長した直後に室戸台風で被災。1944年大阪市電に吸収され、翌年大阪大空襲の大きな被害を受けるなどの歴史をたどり、1968年廃線となりました。

大和川左岸ですすむ 高規格堤防の整備

2019年に開通した阪神高速大和川線の建設に合わせ、大和川左岸三宝地区約1km 13haで高規格堤防が整備されました。地下に高速道路、地上部に土を盛った高規格（スーパー）堤防を整備。堤防の裏法面（のりめん）に土を盛り、ゆるやかな台地状にして堤防決壊を防ぎ、上に新しいまちをつくっています。土地区画整理事業は2017～2029年の予定で進行中。

住居や工場の移転など、様々な課題を解決しながらの事業です。西側の松屋町などから移転を余儀なくされた方々が移り、コミュニティ再建の努力をされています。



南島町1丁 手前が高規格堤防先行整備街区の新しいまち。段差の向こうが旧街区 2025年2月



UR都市機構 堺都市再生事務所資料より

ゆたかな漁場 大和川河口と臨海工業地帯



1953 年田村茂美さん撮影 南海本線鉄橋下での貝とり はがんばり続け、大阪湾の再生を実感しておられます。「ヤマトシジミは日本一おいしかった、炊いたら身がガラよりふくれた。河口にはアサリ・シジミ・ハマグリ・サルボウガイ・マテガイ・シジミがいた。カキや海苔を採ったし、タチウオ・サワラ・カレイが釣れた」そして今、「河口でウナギのシラスをとって浜名湖に送り、臨海 7-3 区辺りのトロイワシは最高。木津市場で“金太郎イワシ、”と呼ばれて人気」だそうです。

臨海工業地と「堺浜」

堺市漁業協同組合の高田さんらは、市民と共に堺臨海 7-3 区に「なぎさ公園をつくる会」の取組みをすすめ、1995 年から出島漁港で「とれとれ市」を続けています。

丸高渡船の渡し船で小学生や市民をクルーズに招待する事業も 20 年ほど続けられました。

漁業者の声などにより、1999 年からエコポートモデル事業、大和川河口で人工干潟づくりが始まりました。碎石を積み砂を入れて「堺浜」ができています。野鳥や波しぶきをあげる子達の姿も見られるようになっています。2000 年には、バーベキューひろばなどが人気海とのふれあい広場ができ、2004 年、堺大和川こどもまつりはここでもたれました。

7-3 区では、市民参加で「共生の森」づくりがすすんでいます。

しかし、臨海工業地帯をぬけ、市街地から数 km 離れた海辺に近づく市民は多くないでしょう。潮干狩りや海水浴を楽しむ浜辺の復活には時間がかかりそうです。

1980 年には企業撤退が始まり、1962 年に操業開始した八幡製鐵（後に新日鐵）は、1990 年に高炉を廃止しました。2003 年以後、堺浜シーサイドステージや、2009 年にはサッカーナショナルトレーニングセンター（J-GREEN 堺）が開業しています。

2007 年、堺市が優遇措置をつけてシャープの工場を誘致しましたが、2024 年に大型液晶パネル生産を停止。今後の動向が注目されています。

1960 年代、堺・泉北臨海工業地帯造成のための埋め立てで白砂青松の浜がなくなり、多くの漁師がやめていきました。

高田利夫さんら



河口のウナギと
高田利夫さん
1970 年ころ



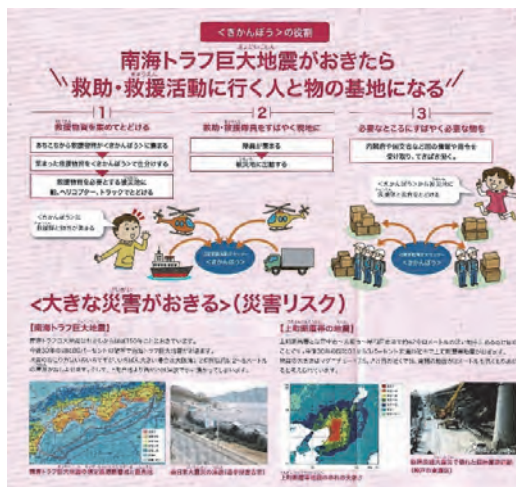
2000 年代初め 海とのふれあい広場と人工干潟の夢を呼びかけたパネル

海辺の「きかんぼう(基幹防)」

国土交通省港湾空港部が2012年に、大地震など内陸部の災害に備えて洋上からの救援活動の拠点として、近畿圏臨海防災センター・基幹的広域防災拠点^{き かん ぼう}を整備しました。広場は支援隊のベースキャンプや物資置き場になります。防災センターには、海水を真水にかえる施設や資材を運ぶ重機、発電機付き投光器なども整備されています。

この地域は、新日鐵が製鉄ガラで埋め立てて造成したため液状化しにくく、施設は耐震化し、津波に耐える高さで設計していると説明されています。

しかし、防災拠点の建物は3階建てで、津波対策やアクセス道路の安全性を心配する声もあるようです。



基幹的広域防災拠点 全体構想 整備位置図



「堺市北港堺2区

基幹的広域防災拠点

リーフレットより

赤字で場所を追加

堺市下水再生水複合利用事業と三宝水再生センター

あじさいまつりで有名な三宝下水処理場は2013年に増築移転し、急速濾過施設と消毒設備が最新だと評価されています。雨水は、三宝下水処理場内の雨水滯水池に水をため、あふれたものを大和川ポンプ場から流しているそうです。

基幹的広域防災拠点やクリーンセンターなど臨海部にも高度処理水を送り、トイレの洗浄水や散水、工業用水などに使われているそうです。2016年に開業したイオンモール堺鉄砲町にも送水。イオンモールは下水再生水を施設内の熱交換器で熱源や水源として活用、せせらぎ水路や内川に流しています。

堺市再生水供給事業は2016年度国交大臣賞「循環のみち 下水道賞」を受けています。



堺市上下水道局「すいちゃん下じき」より

大和川つけかえで移動した堺の港

堺の港は、中世には大小の船が出入りするにぎやかな港でした。江戸時代初めまでは、今のザビエル公園の西側辺りにありました。

その頃までは、港は砂浜に平らな石敷きをして荷車用の道を造って船の荷降ろしをする程度の施設で、元禄期の港から堤防を築き、船が^{さんばし}棧橋に接岸するようになりました。

しかし、大和川つけかえから数年で河口からの土砂がたまり、大きな船が入れなくなりました。沖の防波堤を改修・延長などしても解決せず、6回も港をつくりかえています。

享保年間（1716～1736）には布屋次兵衛らによって沖に防風防砂の石堤を築き戎島の南に堀割を開削しましたが、すぐに埋まってしまいました。



西北からザビエル公園をのぞむ
この辺りが中世の港の跡で、ザビエルを
もてなした日比谷了慶邸があったと伝わる

堺港の うつりかわり

「わたしたちの
まち堺」より



↑ 1692年（つけかえの前）



↑ 1707年ごろ（つけかえから3年）



↑ 1865年ごろ（つけかえから181年）

江戸の商人吉川俵右衛門が呼びかけた港の移転

寛政年間（1789～1801）には、奈良からの材木を江戸に送る業者だった吉川俵^{よしかわひょう}右衛門^{そもん}が、堺奉行や幕府に許可を求め、堺の商人との利権調整にも苦勞し、共同事業で港の新設移動に取組みました。新地と元の市街地の間の堀川（現在の内川の一部）に住吉橋と吾妻橋を架けました。吾妻^{あづま}は俵右衛門が江戸・東^{あづま}の出身だったためにつけられた名前だそうです。

工事は堺南郷と北郷の町中総出の「砂持興業」だったと伝えられています。1795年5月には、老若男女・子どもまで町中の人々が「砂持手伝^{てつだい}」として2万人が波止前で^{はと}のぼりを立て、はなやかに太鼓・鉦などの鳴り物ではやしたて、堺奉行が町民に「お言葉」をかけたということです。

その後も修復事業が進み、1798年には戎島にあった灯明^{だいめい}台を現在の堺駅前辺りに移築しました。

俵右衛門の事業は、戎島付近にあった港を現在の旧港の位置へ移動させるとともに、「新地」に港だけでなく町家をつくるという画期的なものでした。



吉川俵右衛門顕彰碑 俵右衛門が
改修した港は南海堺駅の西あたりに
あった

大きな船が着岸するようになり、港のにぎわいをとり戻しましたが、その後も土砂の堆積は続き、幕末1855（安政2）年の修築で、現在のかぼちゃ形の旧港が完成しました。1900（明治33）年に立てられた俵右衛門の顕彰碑はその北波止の先にあり、彼が旧港をつくったと誤解されることがあり、注意が必要です。

堺港 天保の修築と堺湊新地繁栄図



1834年頃に発行された引札 堺市役所21階の展望ロビーに拡大図が展示されている

大和川河口では新田が開発され、港への土砂堆積も進みました。1817年にも、堺南北両郷で大規模なイベントをしながら波止を掘る砂持興業をしたということです。

天保年間(1830～44)は、1833年からの凶作や大水害による米の不作で、大坂でも買い占め

による米価の高騰や、餓死者4000～5000人の記録があります。淀川や安治川・木津川河口の土砂を浚渫する工事「救民大浚」の土砂を積んだのが天保山です。しかし、1837年には幕府官僚と豪商の癒着に抗議した大塩平八郎の乱が起きました。

この時期に、堺奉行が堀川の開削や浚渫に力を入れ、新地の発展をはかりました。1836年、中之町から南半町までの浜への堀川を開削。積み上げた土砂で御蔭山ができました。御蔭山は後に南海本線の開通で削られ、堺駅の南の高架線路下にその跡の碑が立っています。

その後、栄橋や勇橋を架けるなど、数年にわたって庶民が働く砂持興業で龍神橋を架け、新地に芝居小屋が新設されるなど、ますますにぎやかなまちとして発展しました。

「堺湊新地繁栄之図」は、小間物屋さんがお得意さんに配った引札（広告）で、灯明台の先に防波堤が伸び、左手に魚市場と御蔭山、手前に勇橋があります。中央、舟役所の向いの大きな建物は「朝日の家」。有力者の社交サロンで、幕末の堺事件の舞台となり、明治にはアサヒビールを産みだす鳥井駒吉も利用した場所として有名です。堺の人々が新しい時代にみあう港に造りかえ、新地をきりひらいてきたことを伝えています。

明治からのリゾート 大浜公園と旧堺灯台

1879（明治12）年、堺砲台跡に大浜公園がつくられました。1888年には日本初の私鉄阪堺電鉄（現南海本線）が開通。1903年には天王寺などとともに内国博覧会の会場となり、「東洋一」と言われた水族館がつくられました。すばらしい眺望と白砂青松、潮干狩りや海水浴、3階建て潮風呂のある料理旅館などでにぎわいました。

大正時代には、阪堺電気軌道（阪堺線）が大浜海岸まで支線を伸ばし、大浜潮湯や大浜公会堂、少女歌劇も新設。しかし、1934年の室戸台風で被害を受け、戦中には旅館が軍需工場の労働者住宅に利用され、1945年の堺大空襲で多くが被災して復旧しないまま、臨海工業地の造成でその多くが姿を消しました。



1903（明治36）年の大浜（堺市立図書館蔵）

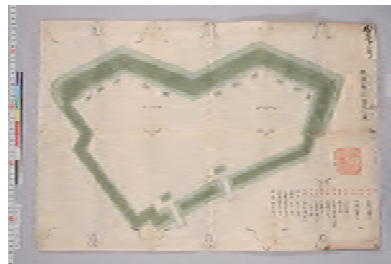
堺砲台跡



体育館移転前の大浜公園マップに砲台跡を重ねる

堺砲台…幕末の大阪湾を守るためだった

1853年ペリー提督の黒船に続いて1854年、プチャーチン提督のディアナ号が大阪湾天保山にやってきました。幕府は堺にも台場を計画。1855（安政元）年に堺旧港南湾戸に砲台を急造、北湾戸にも北砲台を築きました。1866年には南台場は桔梗形西洋式砲台に改造して大砲18門を備えて完成させたそうです。



堺浦南岸砲台之図
上が西 北は右側

湾岸道路に沿って公園の北東側と、公園内の花菖蒲園に砲台南側の石垣が残っています。

大地震の教訓を伝える擁護塹

1854年、安政南海地震（安政の大地震）について、擁護塹にはおよそ次のように刻まれています。

「堺では57人の死者があったが、神明神社・開口神社・菅原神社の庭に避難して多くが助かった。地震があれば津波が来る。地震の時は船に乗ってはいけない。神の加護に感謝し後の世にも患なきを祈る」



蘇鉄山のふもとに立つ擁護塹と解説板

擁護霊は、一等三角点のある日本一の低山 6.97m の蘇鉄山そてつやまの「のぼり口」に立っていますが、蘇鉄山も砲台を囲む土塁の跡です。

一等三角点は、現在は南海本線の線路が通ってなくなった御蔭山おかげやまにありました。天保の飢饉がきびしかった時期に、町の人々が賃稼ぎで南側の土居川につながる水路（内川）を開削し、その土を積み上げました、そのおかげで、まちも人々も救われたという意味で名づけられたということです。

同じ安政南海地震の際、大坂で 2000 人近い死者が出る惨事となり、安治川・木津川の両川口では、家も船も橋もこわれ、水の上なら安心と船にいた人々が犠牲になりました。難波から千日前線で西へ続く大阪市浪速区の西端、大正橋東畔の広場に惨状と教訓を伝える碑が保存されています。

（大浜公園には、水族館の名残の猿飼育舎があります。相撲場や体育館、市民プールなどの施設とともに、南極探検樺太犬慰霊塔ようぎょうおんが、ラジオ塔レプリカ、大阪窯業煉瓦工場跡れんがの碑など、見所がたくさんあります。）

※大阪窯業株式会社は、1896（明治 29）年に現在の大浜北町に広大な工場を建設。

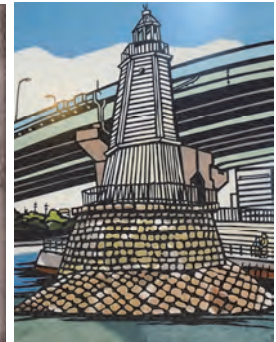
鉄道建設など全国に煉瓦を供給し、1924 年までこの地で操業していました。



大阪市大正橋そばの「大地震両川口津浪記」



「住吉堺名所并豪商案内記」（1883 年）より「堺茅渚浦景況」



前田尋さんのきり絵 堺灯台と高速道路（灯台は堺のシンボルとして親しまれている）

木造で現存 日本最古の洋式灯台

旧堺港の灯台は 1877（明治 10）年に点灯。堺市民の拠出金で地元の大工と石工が設計工事を施工したそうです。1 階に灯台守の居室があるなど独自の工夫がありました。

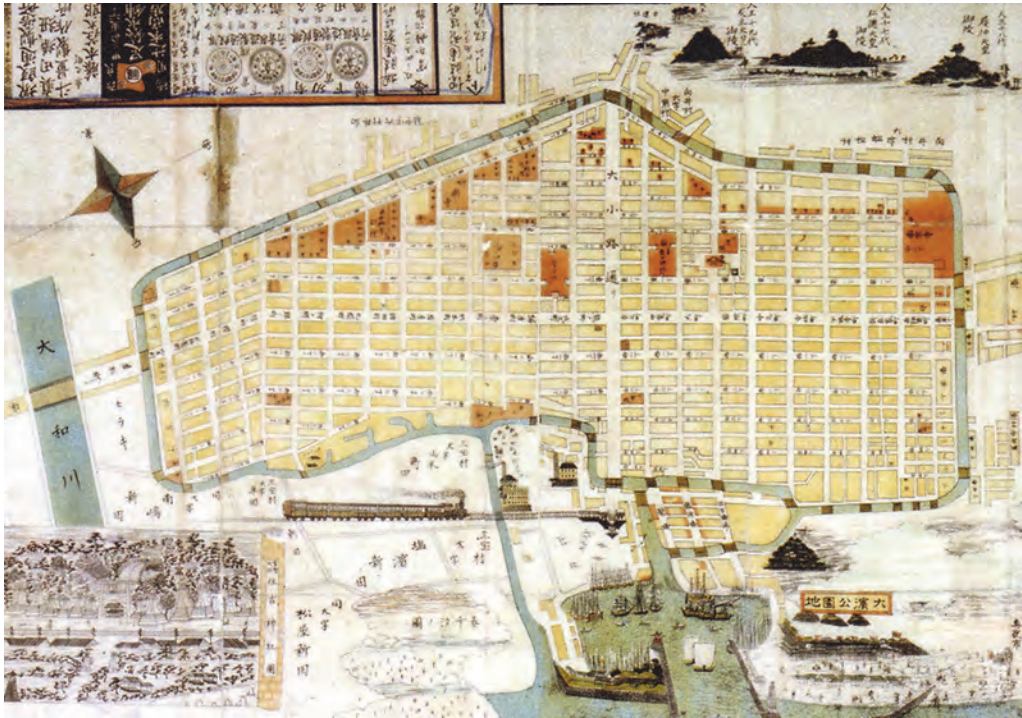
1968 年に廃灯になりましたが、史跡指定をうけ堺市が改修しました。石積み基台と本体は昔のままで、美しく風波に絶える工夫を間近に見ることができます。海の日などのイベントで内部も公開しています。



堺灯台の北側 企業の壁面の大壁画

中世世界の繁栄を描いた「浪漫やさかい」の一部

堺の環濠 土居川と内川



「堺市全図及商工業独案内」(1891 年)

堺市立中央図書館蔵



土居川公園に残されている極楽橋の欄干元は少し北側にあったが、今も丈夫な石橋を歩ける。ほかに、道路添いに小さな橋の親柱がいくつか残されている。

堺のまちは、1615年大坂夏の陣で焼かれて後に再建され、土居川は、一周り外側に掘られました。大和川つけかえの後、排水と舟運のために、西に内川が掘られました。

潮の干満で流れが変わる「感潮河川」で、悪臭やよごれが問題になり、1970 年大阪万博を前に東部分を暗渠にして阪神高速道路が通されました。

1990 年代に、堺市は内川水系の「ふるさとの川整備事業」をスタート。2000～2005 年度大仙古墳東濠に工

業用水を入れ、土居

川南東部から導水。2006 年度から芦ヶ池（向陵東町）から井戸水、2011 年からは海水を導水。内川遊歩道がまちのオアシスになっています。

2005 年以後NPO法人が「環濠クルーズ」を3月末～11 月に運航。歴史ガイドとともに堺のまちと旧港を巡り、2021 年からの12 月環濠ナイトクルーズも好評です。



1970 年ころ 三蔵橋からのぞむ土居川
右側 公園整備が始まっている

自治都市堺のシンボル土居川の復活が望まれています。

大和川流域の多くが堺県だった

大和川つけかえ前まで、和泉と摂津の国境は大小路で、堺の町は大小路を中心として、北を北庄きたのしょう、南を南庄みなみのしょうとよんでいました。明治2年から、大和川を和泉と摂津の国境としました。

明治元年～14年（1868～1881）、河内と和泉の全域と奈良盆地のほとんどが「堺県」となっていました。幕末まで堺奉行所の「川奉行」が大和川を担当していたことも影響があったのでしょうか。県庁は、本願寺堺別院にありました。

自治の歴史と町なみの再生を願って

江戸時代の商家など堺の歴史的町並は、1945年の堺大空襲で多くを失いました。戦争中の強制的な立ち退き（建物疎開）や戦後の復興で、広い道路が通されましたが、綾之町より北の街路は1615年堺再建当時のものです。「旧市」の多くも元の道筋を残して整備されています。

2009年堺市文化財特別公開が始まり、焼けずに残った土居川に近い寺町筋や民家をいかしたまちづくりがすすんでいます。百舌鳥古墳群とともに旧市街北部地域を重点地域としての整備をめざす計画への国の補助も実現。2014年町なみ再生協議会を設立、2015年にはまちなみ修景補助制度がスタートしました。まち歩きマップやニュースを発行。民家の保存・修復・新たな住民とのマッチング・文化イベントなど、市民パワーでやりとげています。

鉄炮鍛冶屋敷も整備公開

堺市は夏の陣の直後に建てられた山口家住宅、修験道寺院で河川かわ慧海も学んだ寺子屋だった清学院を町家歴史館として公開。2024年には井上家住宅を鉄炮鍛冶屋敷ミュージアムとして整備公開しました。

堺伝匠館で、刃物や線香、昆布、晒、自転車などの伝統産業を紹介しています。市内の商店や工房など、職人さんを訪ねて見学することもできます。



堺県庁跡 本願寺堺別院 堺市最大の木造建築の本堂などが堺市指定有形文化財



2017年に歴史的景観への修復第一号でよみがえった住宅。北旅籠町1丁西
建築内装や醤油商の立派な帳簞笥や帳簿なども残る 1階は堺町家案内所で、まちなみ再生協議会の拠点になっている



西部エリア 探訪マップ

赤字は本文で紹介した施設・地名

0 500 1000 m

- 市界
- 緑道・サイクリングロード
- 街道
- 高速道路
- 河川・水路
- 公園



堺旧港に立つ呂宋助左衛門の像



三宝子ども園と慰霊碑



赤字は本文で紹介した施設・地名

赤字は本文で紹介した施設・地名





大和川つけかえの史跡探訪ガイドブック編集委員会

	黒田伊彦	小松清生	小松 忠	澤井健二	辰谷直子	谷 幸三
	中井精一	堀越善孝	万歳雅則			
協力者	川口良仁	黒田 誠	志賀和子	新名 忍	高田利夫	巽 正憲
	谷口 毅	辻 通夫	津山幸三郎	寺田孝重	中 九兵衛	
	安村俊史	矢内一磨	吉田 進	和田太一		
	近畿圏臨海防災センター		堺市上下水道局	堺市立中央図書館		
	住吉大社	全興寺				

2025 年 4 月 編集・発行

大和川市民ネットワーク

☎080-2444-2098

この本は近畿建設協会の助成を得て作られたものです。